

1 磐田市の子育て支援の推進について

磐田市は、子育てなら磐田を合言葉に、出来る施策をいち早く展開していると感じます。先日、行われた「ジュビロ磐田一斉観戦事業」。市内全小学校の5・6年生と一緒に声を上げての応援。笑顔が溢れていました。磐田市としての想いを持った子育て支援をさらに期待し、以下質問をします。

(1) 子ども・子育て支援計画について

平成27年から始まった「子ども・子育て支援新制度」。国の制度として、支援の量と質の両面から子育てを社会全体で支える仕組みへのシフトであったと思います。地域の子育てに対しては、もっとも身近である市町村が中心に取り組むとされ、磐田市も平成27年度より子ども・子育て支援事業計画を策定・スタートさせました。

① 磐田市子ども・子育て支援事業計画の策定から4年が経ちました。

子育てなら磐田 夢実現子育てプランとなる当計画は、今年が第1期の最終年度となります。「子育てなら磐田」がどのように進んだのか、磐田市子ども・子育て支援事業計画の取り組み状況と課題、第2期の支援事業計画策定に向けての方向性を伺います。

② 子ども・子育て支援事業計画の見直しにおいても重要な役割を持つと思われる子ども・子育て会議。実施状況とそこから見える現状と課題、会議結果の活用状況を伺います。

③ 子ども・子育て支援新制度において、子ども・子育て支援事業計画を円滑に機能させるべく、「利用者支援事業」において子育て家庭支援を推進しています。磐田市の「利用者支援事業」の現状と課題について伺います。

(2) 地域子育て支援拠点について

地域子育て支援拠点事業については、児童福祉法に基づく子育て支援事業、社会福祉法における第2種社会福祉事業に位置付けられており、子育て支援拠点は、子育て家庭にとって身近な地域の拠点として、子育て支援の中核的機能を担うことが期待されています。

- ① 磐田市では、市内9つの子育て支援センターを一般型の地域子育て支援拠点に位置付けています。子育て支援センターの運営状況と、支援センターに従事する担当職員数。また、それぞれ現状に対する見解をお伺いします。
 - ② 磐田市では、子育て支援センターの1つである「のびのび」を子育て支援総合センターとして中心施設に位置付け、支援の充実を図っています。ファミリーサポート事業も重要な支援の1つであります。ファミリーサポート事業における近年の利用人数の推移と、それを支えるおまかせ（援助）会員の人数等の状況、それを踏まえたマッチングを含めた現状を伺います。
 - ③ 一般型の子育て支援センターは基本事業として、①子育て親子の交流の場の提供と促進②子育て等に関する相談・援助の実施③地域の子育て関連情報の提供④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施など、重要かつ多岐に渡っている。それぞれの役割に対するの現状とその認識、実績の確認及び評価方法を伺います。
 - ④ 父親の子育てへの関わりの促進や父親同士の交流、父親の学びの場として日曜日や祝日に子育て支援センターが開いているという事は有意義であると感じています。磐田市における子育て支援センターの日曜日・祝日の運営状況とその見解を伺います。
 - ⑤ 子育て支援に取り組む団体、取り組める・サポートできる団体や個人が、地域の子育て支援拠点でネットワークを形成して、それが地域を育て、地域を作る。子育てサークル育成、地域の育成について見解を伺います。
 - ⑥ 子育て支援拠点としての現状、ファミリーサポート事業、保健師の勤務状況、乳幼児健診、子育てに関するイベントなどを見ていると、子育て支援の急激な集約化が進んでいるように感じ心配しています。磐田市としての子育て支援全体の方向性と、地域の子育て支援拠点である子育て支援センターの在り方について市長の考えを伺います。
- (3) 子育て支援全般について
- 子育てが、子どもや親同士を結ぶ。世代を超えて地域全体で、子育て

世代や子どもを支えることで地域が育っていく。市や親子に関わる支援者の努力、周りの理解と支援。それを補う仕組みが地域を作ると考え、以下質問します。

- ① 県が研修・認定を行い、全国で通用する子育てを支援する人材を育成する「子育て支援員」。家庭的保育や小規模保育、放課後児童クラブ、子育て支援拠点等での活躍が期待されます。磐田市における、子育て支援員の活用状況と課題、今後の展望があればお伺いします。
- ② 夫婦共働き、核家族化等の時代背景とともに、一時保育の利用ニーズは高まっていると思います。磐田市における、一時預かり事業の利用状況等の現状を伺います。
- ③ 磐田市においては、平成28年に全児童館を廃止し、子育て支援センターと交流センターの充実を目標に進めてきました。交流センターの充実について、子育て支援という観点から見た現状と課題、地域づくり応援課とこども未来課との連携状況について伺います。
- ④ 子育て支援、とりわけ母子保健分野における保健師の役割は大変重要なもので、母子や子育て支援に関わるスタッフや地域からも頼られている存在であります。高齢社会における健康増進分野への仕事も増大しており、多忙な状況が続いていると思われます。地域住民の保健指導や健康管理を担う、保健師の現状と課題を伺います。
- ⑤ 公助・共助・自助。子育て支援において、どれも欠かせないものであると思います。磐田市全体で、地域で、みんなで子ども達を支える。とはいえ、一番大切なのは、すぐそばにいる親の愛情・関わりであると考えます。子育ては家庭からが第一義である。この第一義を推進するべく、磐田市の仕掛け・仕組みについての取り組みと今後の展望、市長の想いを伺います。

2 「地域の支え合いの仕組み」作りについて

社会的孤立が実社会においても少しずつ顕在化してきている。「悪徳商法等による詐欺被害」「孤独死」など表面化することがあるが、身近にも、「その日一日、誰とも会話をしない」「近所付き合いもない」「困った時に、相談できる人がいない」など状況が広がりつつあると思われまます。それらは、身体機能のみならず認知機能、精神機能にも悪影響を及ぼす。誰でも気軽に集い、交流・会話が生まれる地域の憩いの場所「まちの居場所」について以下、質問します。

- (1) 高齢者のみならず、子ども・若者子育て世帯が自由に集える地域の居場所。居場所づくりの推進について磐田市における取り組みの現状と課題を伺います。
- (2) 居場所による地域共生社会推進には、支援者の想いと様々なサポートが必要であると考えます。また、すでに居場所として地域を支えてくれている場所があります。それぞれの想いの中、地域や社会福祉協議会などの支援を受け、何とか行っている状況にある居場所。市のサポートや誘導により、更なる効果的な居場所づくりが進むと考えますが見解を伺います。
- (3) 地域共生社会の推進や地域の支え合いの仕組みについて、現在の状況と今後の展望を伺います。